

コミュニティ だより

徳島市
徳島市コミュニティ協議会
連絡協議会
〒770-8571
徳島市幸町2丁目5番地
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511

伝えていきたい 地域の文化

一宮小唄保存会

会長 木村 鈴子

我が一宮町、下町本丁地区は、名所旧跡があり自然豊かなところですよ。

一宮町には、続日本百名城に認定された一宮城、国指定重要文化財がある一宮神社、四国八十八カ所十三番札所大日寺、下町本丁には平安時代のロマンを感じられる逸話があります。源義経が屋島の戦いの際、必勝祈願をしたとされる伏拝八幡神社など名所旧跡が数多くあります。

一宮には、こうした名所旧跡や自然豊かな風景がうたわれた「一宮小唄」があります。

この一宮小唄は、昭和初期、地元の田村六三郎氏によって詩が作られ、昭和二十四年頃、一宮小学校教諭であった地元の木村秀行先生によって曲が付けられ、一宮下町地区で盛んに歌われるようになりまし。その後、一宮の歴史を知ってもらうため、踊りの振り付けをし、昭和三十三年には一宮青年団が徳島県芸能大会で優勝し、全国大会に出場したこともありまし。しかし、この「一宮小唄」も高度成長期に入り、時代とともに衰退していき、町内でも細々と受け継がれることとなりまし。平成二十二年になり、いろいろ行っている地域活動の中で、地域の文化として伝えられてきた「一宮小唄」を復活してはとの話が持ち上がり、一宮小唄保存会を立ち上げ活動を開始しまし。会員も六十名ほど集まり、踊りの振り付けも新しくし練習も月二回することとしました。覚えるのに苦労がありまし。だが、会員の努力により、町内外で披露できるようになりました。

地元では、敬老会、成人式、小学校の運動会、その他地元行事で披露しています。



町外では、公民館大会、徳島市コミュニティまつり等で披露するほか、老健施設等に慰問に行き、プログラムの最

後に「一宮小唄」を踊っています。このような活動が認められ、平成二十四年徳島新聞の一面の移動編集局の中で

「一宮小唄」が取り上げられ「よみがえる心の古里」と題して報道されるまでになりました。また最近では、国府有線テレビ開局三十周年記念番組として、「歴史散歩「一宮小唄」をひもとく」と題して放映されました。

一方、今後の課題として、いかにして次の世代に伝えていくかという問題がありました。課題解決のため一宮小学校の生徒に、一宮の歴史の勉強の一環として「一宮小唄」を教えることとし、毎年四年生になると一宮コミュニティセンターで一時間程度の勉強に来てもらっています。

こうした取り組みを続けることで、地域の文化「一宮小唄」を後世に伝えていきたいと思っております。

(一宮下町づくり推進協議会)



内町まちづくり協議会の特色ある活動

内町まちづくり協議会

会長 宮澤 武志

内町まちづくり協議会の特色ある活動を三つ紹介したいと思います。

一つ目は、撫養航路探訪です。撫養航路とは、陸上交通路や鉄道がほとんど発達していない明治二十五年に徳島から鳴門間を吉野川や旧吉野川などを航路として巡行船が開始されました。当時の徳島市と撫養を結び交通・輸送の重要な役目を果たしていましたが、昭和十年に鉄道開通によりその役目を終えました。

その航路を巡る巡行船が再開され当時と同じ航路を探訪する船旅です。三年前からまちづくり協議会の事業の一環として始めました。両国橋棧橋よりひょうたん島クルーズ船に乗り込みスタートし、県庁前から沖洲川樋門を通過し吉野川を横断します。日常で

は絶対味わえない素晴らしい船旅です。普段見ている風景でも船上から見ると別のよう

な風景になります。鈴江樋門から榎瀬江湖川を通過し、鯛浜橋で今切川に入ります。加賀須野橋の手前から鍋川に入り、いよいよこの船旅のハイライトの鍋島閘門（こうもん）に向かいます。海水が旧吉野川へ流入する役目を担っている扉が二つあり、まず手前の扉が持ち上がります。中に入りますと扉が閉まり、続いて次の扉が開き通過します。超小型のパナマ運河のように水位を調整しています。地上では味わえない初めての体験です。そして旧吉野川河口堰も同じようにして通過します。大津橋を通過し撫養川に入り、終点の文明橋付近で船を留め鳴門駅付近を散策し、帰ってきました。機会があれば体験

して船旅を楽しんでください。二つ目は、昨年から始めたスタンド・アップ・パドル・ボード（SUP）の体験会です。新町橋付近の川面を立ってボードに乗り、パドルで漕いで気持ちよさそうに走っている風景を見たことがあると思います。内町地区は川で囲まれています。昔は川遊びが盛んでありました。これを事業の一つとして取り上げました。参加者は始めて体験する人がほとんどです。ボードに乗り、立ち上がる時は多少揺れますが、一度立ち上がれば気持ちよく乗れます。初心者なので真つすぐ進めませんが、どうにか



県庁前を通りいよいよ撫養航路探訪に出発です。

ました。短い時間でしたが、気持ちよく水面上を水上散歩しました。

三つ目は、社会福祉協議会主催の内町地区福祉祭りです。昨年は旧内町幼稚園の広い園庭・教室・リズム室を使用しました。毎年大勢の地区住民の皆様に参加していただき、

大変盛大に行っています。大人から子どもまで参加しての餅つき、その餅を入れたぜんざいや、うどんがふるまわれ大変喜んでいただいています。バザーも人気があり開場前には行列ができています。人気の日用品はあつという間に売り切れます。地域、内町小学校、中学校のボランティアの皆様



参加者は初めてのSUP体験をしています。

に手伝っていただき、交流の場所としての大きな役割を果たしています。

以上が特色のある活動であります。以上が特色のある活動でありませんが、地域住民の要望に応えられる活動を取り上げ、好評のひょうたん島カフェと同じようにこれからも運営していきたいと思っています。



旧内町幼稚園での内町地区福祉祭り



撫養航路図

平成三十年度 応神町 自主防災会連合会活動報告

応神町自主防災会連合会

濱井 利教

応神地区津波避難計画の策定

徳島市防災対策課のご指導をいただきながら、昨年度は、各町内会で共通理解を図ってきた津波避難計画を策定する作業を進めてきました。より多くの町民が実行できる計画を目指し、各地区の自主防災



津波避難計画 何度も話し合いを繰り返しました。

組織や町内会長のご協力を得て、四回の役員会とワークショップを開催し、完成させることができました。

完成した計画は、各町内会や避難箇所・消防団などの関係機関になるべく早く配布する予定です。また、各ご家庭には必要部分を抜き出し配布する予定です。そして、計画で立案した時間での避難が可能かをチェックする避難訓練を、今年度実施できればと考えています。

今後も津波避難の訓練や計画の改定に町民の皆さまのご協力をお願いいたします。

正法寺川の排水機の整備

正法寺川の樋門の排水ポンプが老朽化しており、十分な排水ができない状況が続いていました。そのため、三年前

から国土交通省徳島事務所に排水機の整備の要望をいたしました。

そしてこの度、やっと予算措置がなされることとなりました。国会で予算が決まれば、今年度から排水ポンプの取り替え工事に着手し、三年間くらの工期を経て完了する予定になっています。正法寺川の周りは商業・住宅開発が進み、遊水地帯が減少しております。そのため、大雨や台風による洪水が心配ですが、出水期には工事ができないため少し時間がかかるようです。

今切川堤防の強化がすすむ

今切川南岸は堤防が低く、



護岸工事が進んでいる現在の今切川（古川）

強度も不安があるとのことから、正法寺川の排水機と同様に国土交通省徳島事務所に要望が行われていましたが、強化の工事がほぼ完了しています。津波や洪水で堤防が切れる心配は少なくなっています。吉野川の堤防のような高さはなく、堤防の水が乗り越える心配は無くなっています。今後は、堤防のかさ上げを中心とした要望を続けていく必要があると思います。ただ、堤防のかさ上げは下流域の方が優先なので一年でも早い着工を目指して町民の皆さまのご支援をお願いいたします。

研修視察の実施

二月末に、自主防災会の方々と町内会長等の町内有志がそろって研修視察に出かけました。目的は神戸市にある「人と防災未来センター」です。阪神・淡路大震災の記憶を忘れないための、そして、次の震災に備えるための施設です。南海トラフ地震・津波についても取り上げています。

震災直後の町並みを復元した展示やボランティア活動の



視察研修 職員の方の話に耳を傾ける。

資料の展示もあり、避難所運営の参考になる内容も多くありました。避難時に必要な物のリストもいただきました。

また、東日本大震災の大津波を映像化したものをシアターで見ました。巡視船が津波を乗り越える映像は、自分が船に乗っているように感じました。その後、三宮で震災復興後の町並みを見ながら自由散策を行い、帰路につきました。

今回の視察研修を生かし、自主防災会が独自の取り組みを進めることにより、町の防災対策の向上につなげていきたいと考えています。
(応神町コミュニティ協議会)

渭東コミュニティ協議会の活動

渭東コミュニティ協議会

渭東コミュニティ協議会では、目的である「快適で安全に、そして文化的で多様性のある生活が営める町づくり」を達成するために、次のような事業を進めています。

住みよい町づくり運動の啓発とふれあい意識の高揚

自主防災連合会や防犯委員会、消防分団等と協力連携し、高齢者と児童の交通安全や防災・防犯運動を年数回行っています。中でも、今年で四年度になる「福島小学校区通学



通学路スタンプラリー

路スタンプラリー」は、地域を挙げての事業となり、子どもたちと地域の人たちの交流も深まりました。

みんなが手を取り合える、健康で楽しくあたたかい町づくりの推進

公民館主催の体操教室「アカシア会」に加えて、今年度より新たに「いきいき体操クラブ」が始まりました。誰でも参加することができ、「いつも通りに、あたりまえに」を合言葉として毎回参加者の数を増やしています。

ボランティア活動の輪を広げ、温もりのある優しい福祉社会の構築

「敬老会」や「福祉まつり」などの様々な地域福祉事業の支援と推進を図っています。「単身高齢者食事サービス」では、保育所園児や中学生ボランティアの参加もあり、世代間交流が深まります。

地区内に在する伝統産業や文化遺産を大切にし、その保存と伝承に努める

渭東は、古くから木工の町として知られ、家具や仏壇などの製造が盛んに行われていました。一時の隆盛はないものの、伝統産業として全国に知られています。また、数多くの文化遺産が町のあちこちに残っています。進められる都市計画の中で、いかに保存



いきいき体操クラブ



中学生ボランティアによる食事サービス

と伝承に努めるかが、これからの大きな課題です。

地区内各種団体の連帯を密にし、日々の前進ある明るい町づくり

これからも、地区の各種団体と常に連絡を取り合い、相互援助のもと活発な活動をし、地域住民の拠点となり、中心となるようにと願っています。



東照寺

四園と地域老人会との交流会

南井上コミュニティ協議会
篠原 靖治

現在南井上地区には、「南井上幼稚園」「南井上保育所」「聖ベルナデット保育園」「島田おひさま保育園」と、幼児を対象とした施設が四カ所あります。交流会を持つまでは、この四園の幼児たちが一堂に集まることはありませんでした。

七年前にある保育所の子どもが、同地区の小学校に入學するにあたり、一人も友だちがいなくて不安がっていることを知り、なんとか入学前にお互い顔合わせをして、友だ



ちづくりの手助けをしてあげればと思い、平成二十五年十月頃に各園の交流会を持ちかけたところ、願ってもないことと承諾をいただきました。

そこで、南井上コミュニティセンターの使用許可と老人クラブ「福寿会」のご協力をいただき、一月十五日(二十日の午前中に初めて実施することとなりました。

本年は一月十七日に、各園の年長組六十五名、引率者六名、老人クラブ「福寿会」八名、公民館長、コミュニティ協議会長、ボランティアとして私が手作りしたおもちゃで実施しました。

午前中は十時より、正方形の形で向かい合い自己紹介を行い、交流会の目的を話し合い、交流会のルールとして他園の人と手をつなぎ、それぞれの場所ですれ違い、笛の合図で相手を変える(十五分くらい)こととしています。

相手が見つかっていない人には、引率者や老人会の人がかかけをしています。

活動内容は、木のおもちゃひと型積み木六百個、ビー玉落とし二台、木製パズル十数枚を提供して遊びます。

老人会の男性は、積み木を高く積み上げるため脚立を使用するので、その補助をしていただき、女性の方にはパズル遊びのアドバイスなどをしていただき、子どもと楽しく交流に励んでいます。

一時間の活動ですが、毎年笑顔いっぱい楽しく交流し、老人会の方も子どもたちから元気をいただいています。後片付けも子どもたちも一緒に頑張って和気あいあいと協力し合います。

活動の様子は、国府ケーブルテレビで収録され、後ほど放送されています。

変わりゆく沖洲

沖洲コミュニティ協議会



沖洲コミュニティまつり

沖洲コミュニティセンターは、平成十一年一月に落成して昨年度で二十周年を迎える

ことができました。

記念事業として、毎年恒例の沖洲コミュニティまつりを二十周年の冠事業として開催しました。徳島市長にも参加をいただき、イオンリテールの協賛も得て、豪華な抽選会や模擬店も出店して、多数の地域の皆さまに楽しんでいただき、盛大なまつりができたことに感謝しております。

沖洲地区は四十数年前から、徳島市中央市場やマリニア工業団地が造られ、近年では、避難所機能も兼ね備えた沖洲小学校や徳島市立高校が建て替えられ、大型量販店も出店して、ネギ畑だった沖



沖洲小学校

洲地区が大きく変わりました。

今後も高速道路の徳島ICや、津田方面への広域道も建設中であり、ますます発展していく沖洲を、地域住民とともに豊かな住みよい町に、若い方や中高年の皆さまのアドバイスをいただきながら町づくりを進めていきたいと思っています。

南海トラフ地震に対しても自助、共助の避難行動を強化するために、地域の皆さまと協力しあって、災害に強い、住んで楽しい町に一歩一歩、進んでいきたいと思っています。



高速道路工事

大六コミュニティ活動の紹介

長寿を祝う

丈六コミュニティ協議会

平成二十八年度から敬老会の主催が丈六公民館から丈六コミュニティ協議会となり、三年になります。平成三十年度も九月十七日(敬老の日)に丈六コミュニティセンターにて丈六町敬老会が開催されました。

丈六町では、七十五歳以上の方が該当者となっており、昨年度の該当者は三百七



渋野小学校和太鼓クラブ

十七名でした。

該当者全員には各町内会の会長さんが自宅を訪問し、協議会が作成した案内チラシと



丈六民踊クラブ

多家良地区社会福祉協議会の記念品を配付し、敬老の日を祝っています。

敬老会の開催にあたっては、事前打ち合わせ会や前日までの会場準備、また催し物



ハッピーを作りました。

のプログラムの作成など協議会の運営委員・各町内会の役員や世話人・地域のボランティアの方々などの支援を受け、開催しています。

昨年度の参加者は主催者・来賓等関係者を含め百四十五名でした。

式典の後、恒例となった丈六保育所の子どもの遊戯、演芸の部では渋野小学校和太鼓クラブの「山彦・祝い太鼓」をはじめ地域の人たちによる踊り・歌・太極拳などが披露され、敬老会を盛り上げ



公民館大会でハッピーをお披露目しました。

ていただきました。

敬老会は地域のコミュニティ活動を深める大きな行事となっております。

昨年度、地域の要望もあり、協議会において名前の入ったハッピーを三十着購入しました。

このハッピーは丈六コミュニティ協議会の関連行事での使用とともに、地域内外での各種行事や発表会などで地域の皆さまが気軽に使用していただくことを目的にしています。

編集後記

「令和」最初のコミュニティだよりをお届けします。「令和」には皆さまの期待を込めて、調和と平和が続きますようお願いいたします。

さて、一宮では、文化の保存の観点からみんなで守っていかうという努力が見られます。内町では昔の交通のあり方や新町川での体験を通じて町内の活動を活性化しようという努力が見られます。応神では直近の南海トラフの地震の研修を行い災害に備える活動を行っています。渭東では町づくりの観点からそれぞれのグループで頑張っている。南井上では保育所と高齢者の交流を通して地域の活性化を目指しています。沖洲では、二十周年のコミュニティまつりを通して地域の人集めを行っています。丈六では敬老会やハッピーを作り地域の活動を強めています。徳島市コミュニティ連絡協議会会員の皆さまの地域と歩むコミュニティ活動への協力をお願いします。

(大川良文 記)